

オーブン
カレッジ

愛知県津島市にある西光寺に安置される木造地藏菩薩立像(鎌倉時代、重要文化財)が、京都にある百万遍知恩寺に移されることになった。西光寺は、もともと知恩寺の塔頭(たっちゅう)として創建された寺院であったが、江戸時代にこの地藏菩薩像を本尊とする水落(みずおち)寺と合併することとなった。その後、寺は衰退し、仏像は京都国立博物館に寄託された時期もあったようだが、1899(明治32)年に寺籍ごと津島市に移して再興され、その際にこの仏像も京都から津島にやってきた。

移動する文化財

県史 別編 文化財3 彫刻一では、県内に残る数多くの仏像の中でも口絵を飾る一体に選ばれている。筆者が愛知県史編さん事業の調査でこの像を初めて見た時は、X線撮影を通して体内に納入品があることは知られていたが、像の表面には黒く漆が塗られた状態で、「愛知県史」の口絵写真もその姿で掲載された。その後、14(平成26)年に解体修理が行われ、「二行一筆結縁経」や印仏など、この像の制作事情を明らかにする貴重な資料が像内から取り出され、像表面に塗られた漆も綺麗に落とされ、彩色や鍍金(きりかね)文様など制作当初の美しい姿が蘇り、18(平成30)年には国の重要文化財となった。仏像や

とても大切にされており、拝観に伺った際も先代住職が熱心に解説してくださった姿が印象に残っている。筆者が文化財調査や拝観を通して、こうした貴重な仏像に近づく機会を得られたのは、この像が京都から愛知に来ていたからであり、その縁に感謝する思いである。

今、126年ぶりにもこの土地にお帰りのなるというだけでではなく、像そのものに残せる情報ではないかもしれないが、太平洋戦争や伊勢湾台風などの災禍を乗り越え、126年という歳月、西光寺でこの像が大切に守り継がれたことや、津島の地でこの仏像と縁を結んだ人たちの思いや記憶も語り継がれていくと欲しいと願う。

西光寺の

地藏菩薩像、京都へ



山女学園大学
情報社会学部准教授
見田 隆鑑

この像は、1961(昭和36)年に愛知県指定文化財となり、2013(平成25)年に刊行された「愛知

みた・たかあき 専門は美術史学。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士(文学)。

納入品は、昨年4月から先月末にかけて東京、京都、九州の三つの国立博物館を巡回した特別展「法然と極楽浄土」にも出展された。

先月、この仏像が126年ぶりに京都に帰還するというニュースを目にし、愛知県史の調査に参加した時や、大学の講座で修理の前後に社会人の受講者を引率して拝観させて頂いた時の思い出が頭の中を巡った。特に、お寺の方がこの像を

今回のように仏像が別の土地に移動するというのは珍しく感じる方もいるかもしれない。しかし、愛知県内にある文化財指定を受けた仏像でも、当初から現在の土地に伝わったものばかりではなく、実は京都や伊勢などさまざまな地域から移ってきた仏像が存在する。寺院自体の移転に伴ってやってきたものもある。人の縁を介して伝わったもの、海から引き上げられたもの、明治期の廃仏毀釈の際に本来の居場所を失って移動してきたものなど、その事情はさまざまである。皆さまの地域のお寺やお堂に祀られている仏像も、実はどこか別の土地から移ってきた経歴を持っているかもしれない。